

今支館・分館では

『出来ることで力を出し合う』

— 両神分館 —

少子高齢化で地区の先が見えない、子との同居を考えて家を増築したのに核家族化、子は出て行ったまま。こんなはずではなかったと若い頃描いた老後の暮らしとの落差に戸惑う人。この先自分も地区もどうなっていくのか先が見えない不安。「少子高齢化社会」この一言で括られてしまいう時代。当たり前にあった人と人との付き合いも意識求めなければ孤立していく。多くの地域に共通した状況かと思えます。

両神区もこのまま推移すると5年後は人口286人中70代が40人、80代が72人、90代が30人となりいよいよ高齢化は深刻になります。

幸い両神区には一人の区民も孤立させないと区民が築いてきた交流の場があります。毎月行われる「結いの会」、

年4回行う「両神サロン」、年3回行う「ふれあい給食」それに年2回の介護予防教室も取り組んでいます。

また両神シルバークラブをはじめマレットゴルフ愛好会、コーラス・ルパート、囲碁愛好会、浅間吟道会、大正琴愛好会が定期的に活動しています。その他会館を利用し定期的に活動している集まりを加えれば10を超え、それぞれ楽しんでいきます。

区内の人と人のお付き合いはこれらの集まりを通じて繋がりを深めている人も多いのではないかと思えます。ちなみに昨年は「結いの会」に延べ人数で247人が参加しました。これにサロン4回、ふれあい給食3回と愛好会の活動もあります。不安、孤独感を和らげる基盤は、縦にも横にも広がっています。顔を会わせ、歌ったり体操したり食事したりする集まりは、参加者にはオアシスの様な存在になっっていると思います。



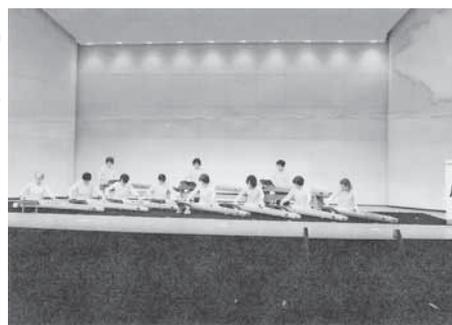
区役員、福祉推進委員、協力者、民生委員もきめ細かく活動しています。これらの会の運営を担っている方は70代以上がほとんどです。次の代に順調に繋いでいけるか高齢化が加速する両神区の課題と考えています。

出来ることで力を出し合い健康長寿の区を目指し住みよい地域づくりをしていくことだと思います。

両神区長 坂口 保典

教えて！ あなたのサークル

【佐久三曲協会】



「三曲」とは、琴・三絃・尺八という3つの伝統的和楽器によって演奏される曲のことで、「佐久三曲協会」は今から50年前に発足しました。会員数は現在、約130名で、毎年、「佐久三曲演奏会」「長野県三曲演奏会」「小諸公民館まつり」などに参加して演奏活動をしています。

今日、この三曲演奏が海外でも高く評価され、特に欧米諸国では、「日本音楽研究会」などのサークルを持つ大学があり、日本から講師を招いて演奏練習をしています。

皆様も、私どもと共に、三曲演奏を始めてみませんか。

連絡担当者 塩澤 高童

【小諸民踊りまわりの会】

私達の会は、「日本フォークダンス連盟」「長野県支部日本民踊部会」に属しております。全国講習で学んできた民謡とレク・ダンスを指導者の下、踊っております。

長野県の民謡には、木曾節・伊那節・竜峡小唄・望月小唄等があります。レク・ダンスには千の風になって・見上げてごらん夜の星を・お富さん・西郷隆盛等があります。

高齢化が進み会員も少なくなつてきておりますが、健康と頭の体操の為に、皆頑張つて楽しく踊っております。新しい曲は覚えるのが大変ですが、音楽がかかれば自然に踊れるようになります。間違えても笑いがあります。休憩時の情報交換も楽しみの一つです。

「公民館まつり」の舞台発表を目標に踊り、また長野県連主催のイベントにも毎年参加しております。

練習日は毎週火曜日の午後1時半から3時半まで。一緒に踊ってみませんか。

代表 土屋 てる子

